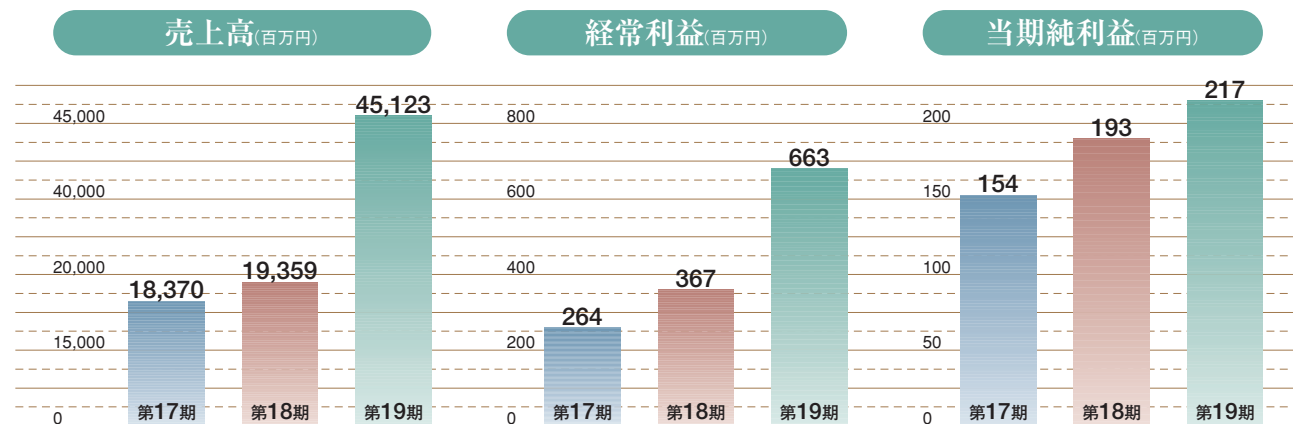


連結業績ハイライト

| 科目 | 前期(第18期) 平成15年1月1日 ～平成15年12月31日 | 当期(第19期) 平成16年1月1日 ～平成16年12月31日 |
|---------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 売上高(百万円) | 19,359 | 45,123 |
| 営業利益(百万円) | 431 | 668 |
| 経常利益(百万円) | 367 | 663 |
| 当期純利益(百万円) | 193 | 217 |
| 1株当たり当期純利益(円) | 12,146.13 | 1,849.08 |
| 総資産(百万円) | 5,579 | 22,777 |
| 株主資本(百万円) | 1,609 | 8,720 |



社長メッセージ

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第19期(平成16年1月1日から平成16年12月31日まで)の決算を終了いたしましたので、ここに事業報告書をお届けいたします。当期におけるSBSグループの連結業績につきましては、大変厳しい経済環境の中、売上高は前期比133.1%増、営業利益は同54.9%増、経常利益は同80.5%増、当期純利益につきましては同12.6%増と大幅な増収増益を達成することができました。

これも、「事業インフラ プロバイダー」としてSBSグループが取り組んできた、「企業のアウトソーシングニーズに対する包括的かつ柔軟なサービスの提供」がお客様にご評価をいただいた賜物と感じております。

今後は、これまで取り組んできた物流、人材、マーケティングの3分野を中心に、さらに周辺分野にも事業基盤の拡大を進めてまいります。

とりわけ物流分野では競争の激化により企業体力の格差が拡大していくものと予想されるため、多額のシステム投資や配送センター等の不動産投資を実施し、競争力を高めていかなければなりません。そのためには事業規模の拡大が必須であり、他の事業分野とのシナジーを高めつつ、事業規模の拡大を図ってまいります。

また、ワンストップでより幅広いアウトソーシングサービスを提供するために、従来の事業分野に加え、金融、情報システム、リサイクルの3分野も強化して行く方針でございます。その結果をもって、株主の皆様へ利益を還元し、皆様のご期待にお応えしてまいります。

株主の皆様におかれましては今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役
鎌田正彦

連結業績の概要

持株会社への移行と
グループ再編による事業の
効率化、シナジー効果で
大幅な増収増益を達成

当期の概況

当期における我が国経済は、米国景気の堅調な推移、国内における設備投資や個人消費等の民需の底固さから、成長スピードは緩やかながらも景気の拡大が続きました。これに伴い、企業業績も改善し、価格下落も下げ止まりの傾向が見え始め、個人所得が回復し、個人消費を支えることとなりました。

このような環境下、郵政民営化の動きを踏まえ、マーケティングサービスの分野では価格競争が一層激化するなど、当社にとりましては、引き続き厳しい環境が続きました。

当社では、持株会社制への移行、グループ再編により、事業の効率化、事業間のシナジーを高め、事業規模の拡大と相まって業績を大幅に伸長させることができました。

当期の業績は、フーズレック(株)(旧雪印物流(株))のグループ加入により、物流事業の売上高、利益が大幅に拡大したことから、売上高45,123百万円(前年同期比133.1%増)、営業利益668百万円(同54.9%増)、経常利益663百万円(同80.5%増)、当期純利益217百万円(同12.6%増)と大幅な増収増益を達成することができました。

セグメント別概要

物流事業

フーズレック(株)のグループ加入により、大幅に事業規模が拡大いたしました。チルド物流事業は、夏の猛暑による飲料輸送の増加や、(株)スイートガーデン等の大口顧客の獲得により、大口顧客である旧雪印乳業グループ各社向け売上の減少を補うことができました。また、即配事業は、価格競争の激化により同業他社の撤退が相次いだことにより、当社の売上が伸長し、収益も大幅に改善いたしました。

この結果、当期の売上高は31,835百万円(前年同期比328.1%増)、営業利益は539百万円(同253.2%増)となりました。

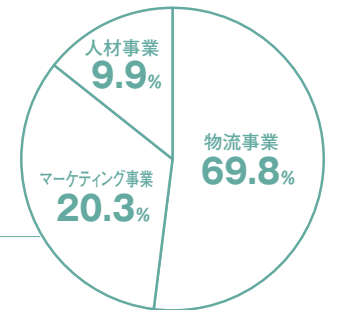
マーケティング事業

マーケティングサービス事業は、日本郵政公社の積極的な価格政策の影響で価格競争が激化し、事業環境は一気に厳化いたしました。当社は、新たな営業組織の立ち上げ、営業員の増員等により対処し、マーケティングサービスの取扱数量を伸ばすことができましたが、価格の低下により、充分な売上、利益を確保することができませんでした。一方、新分野である地域データサービスの大型受注を得たことにより、セグメント全体としては、業績の落ち込みを最小限度に留めることができました。この結果、当期の売上高は9,275百万円(前年同期比8.6%増)、営業利益は235百万円(同21.3%減)となりました。

人材事業

引き続き企業のアウトソーシングニーズは強く、倉庫内作業を中心とする軽作業請負事業を順調に成長させることができました。これは、既存営業所の売上が堅調に推移したことに加え、新規開設した営業所の売上が、業績に寄与したことによります。また、事務職等の人材派遣事業も、着実に拡大を続けることができました。この結果、当期の売上高は4,522百万円(前年同期比15.3%増)、営業利益321百万円(同51.3%増)と増収増益を達成することができました。

セグメント別売上構成比



事業インフラ プロバイダーとしての歩み

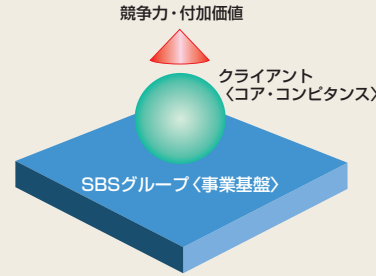
SBSグループは、企業のアウトソーシングニーズに対応し、企業の競争優位戦略を支え、利益に貢献するために、ビジネスプラットフォームをトータルに提供する「事業インフラ プロバイダー」事業を展開しております。

当社は、今後もM&Aを活用しつつ、新サービスの拡充、規模拡大および効率性の改善に努め、企業のあらゆるアウトソーシングニーズにお応えするために、マーケティングからシステム・インテグレーション、人材、ロジスティクスまで、顧客の業務プロセスをフルラインかつワン・ストップでサポートしてまいります。

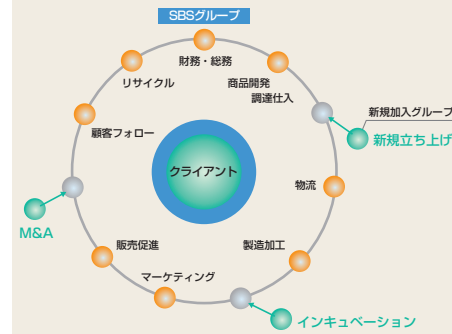
〈SBSグループのサービスの特長〉

SBSグループは優れたビジネスプラットフォームをトータルに提供します

クライアントは、事業インフラを提供されることでコア・コンピタンスに集中できるため、業務の付加価値を高め、市場での競争力を増すことができます。



クライアントの業務プロセスをフルライン、ワン・ストップでサポートします



サービス拡充、規模拡大
および効率性の改善に努め
事業インフラ プロバイダー
No.1 企業へ

4月1日
取締役会にて、雪印物流(株)の株式を取得し、子会社とする事を決議

6月1日
雪印物流(株)がSBSグループに加入

2月12日
取締役会にて1:2の株式分割を決議

5月24日
取締役会にて、新株式発行及び株式売出し並びに1:3の株式分割を決議

6月24日
子会社の雪印物流(株)がフーズレック(株)に商号変更

7月15日
(株)ハナマサと資本提携

8月24日
子会社のフーズレック(株)が(株)スイートガーデンより物流業務一括受注

7月1日
持株会社制へ移行
経営の効率化、意思決定の迅速化を図るため、グループ会社を再編し、SBSポストウェイ(株)、SBSロジテム(株)、SBSスタッフ(株)を発足。

8月24日

(株)ビッグバンの子会社化を決議
取締役会にて、(株)ビッグバンの株式を取得し、子会社とすることを決議(50.99%)。
(株)ビッグバンは、物流に特化したシステム開発を手掛けており、物流システムのバイオフィア的存在の会社です、今後はSBSグループにおける物流サービス事業のクォリティーとスピードを向上させ、より競争力の高いサービスを提供してまいります。

8月26日
(株)ゼロ(旧日産陸送(株))の株式を80万株(発行済み株式総数の14.98%)取得

9月3日
(株)エーマックスを設立
(株)ランドコンサルティングと不動産の証券化、流動化業務を目的とした(株)エーマックスを共同設立(当社出資比率60%)。
SBSグループのM&Aやインフラ整備の推進、ならびにクライアント企業への金融支援サービスを実施してまいります。

12月17日

(株)AT&Cの子会社化
第三者割当増資を引き受け、ソフトウェアの販売を行う(株)AT&Cを子会社化(83.33%)。

10月15日
カーライル社との共同不動産投資ならびに伊藤忠都市開発(株)との共同アセットマネジメント契約受託

12月7日

(株)ダックの子会社化を決議
取締役会にて、(株)ダックの株式を取得し、子会社とすることを決議(90.01%)。
(株)ダックは「ダック引越センター」のブランドで引越業界における認知度の高い企業グループです。今後は、SBSグループの全国規模で広範囲なコンシューマーチャネルの物流およびその付帯周辺業務を手掛け、物流サービスの機能強化に努めます。

連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表 (単位:百万円、単位未満は切り捨て)

| 科目 | 前期(第18期) 平成15年12月31日現在 | 当期(第19期) 平成16年12月31日現在 |
|-------------|---------------------------|---------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 4,869 | 14,402 |
| 現金及び預金 | 1,854 | 5,986 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,660 | 6,989 |
| 有価証券 | — | 500 |
| たな卸資産 | 84 | 188 |
| 短期貸付金 | — | 238 |
| 繰延税金資産 | 61 | 110 |
| その他 | 232 | 444 |
| 貸倒引当金 | △23 | △53 |
| 固定資産 | 710 | 8,375 |
| 有形固定資産 | 89 | 3,875 |
| 無形固定資産 | 72 | 89 |
| 投資その他の資産 | 548 | 4,410 |
| 投資有価証券 | 310 | 2,622 |
| 出資金 | — | 283 |
| 長期貸付金 | — | 412 |
| 保険積立金 | 41 | — |
| 差入保証金 | 136 | 809 |
| 繰延税金資産 | 18 | 218 |
| その他 | 76 | 92 |
| 貸倒引当金 | △34 | △28 |
| 資産合計 | 5,579 | 22,777 |

| 科目 | 前期(第18期) 平成15年12月31日現在 | 当期(第19期) 平成16年12月31日現在 |
|------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 3,424 | 9,438 |
| 支払手形及び買掛金 | 1,786 | 5,054 |
| 短期借入金 | 422 | 1,520 |
| 1年内返済予定長期借入金 | 447 | 892 |
| 1年内償還予定社債 | 30 | 330 |
| 未払金 | 154 | 192 |
| 未払費用 | 297 | 711 |
| 未払法人税等 | 97 | 174 |
| 未払消費税等 | 91 | 225 |
| 賞与引当金 | — | 74 |
| その他 | 97 | 262 |
| 固定負債 | 532 | 4,072 |
| 社債 | 305 | 425 |
| 長期借入金 | 220 | 3,107 |
| 退職給付引当金 | — | 448 |
| 連結調整勘定 | — | 47 |
| その他 | 7 | 44 |
| 負債合計 | 3,956 | 13,510 |
| 少数株主持分 | | |
| 少数株主持分 | 14 | 546 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | 313 | 3,833 |
| 資本剰余金 | 404 | 3,925 |
| 利益剰余金 | 889 | 955 |
| その他有価証券評価差額金 | 1 | 5 |
| 資本合計 | 1,609 | 8,720 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | 5,579 | 22,777 |

連結損益計算書 (単位:百万円、単位未満は切り捨て)

| 科目 | 前期(第18期) 平成15年1月1日 ~平成15年12月31日 | 当期(第19期) 平成16年1月1日 ~平成16年12月31日 |
|--------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 売上高 | 19,359 | 45,123 |
| 売上原価 | 16,915 | 41,505 |
| 売上総利益 | 2,444 | 3,618 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,012 | 2,949 |
| 営業利益 | 431 | 668 |
| 営業外収益 | 12 | 122 |
| 営業外費用 | 76 | 126 |
| 経常利益 | 367 | 663 |
| 特別利益 | 30 | 7 |
| 特別損失 | 19 | 32 |
| 税金等調整前当期純利益 | 379 | 638 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 173 | 277 |
| 法人税等調整額 | 3 | 107 |
| 少数株主利益 | 8 | 35 |
| 当期純利益 | 193 | 217 |

連結剰余金計算書 (単位:百万円、単位未満は切り捨て)

| 科目 | 前期(第18期) 平成15年1月1日 ~平成15年12月31日 | 当期(第19期) 平成16年1月1日 ~平成16年12月31日 |
|-----------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 資本剰余金の部 | | |
| 資本剰余金期首残高 | 286 | 404 |
| 資本準備金期首残高 | 286 | 404 |
| 資本剰余金増加高 | 118 | 3,521 |
| 新株発行に伴う増加高 | 118 | 3,521 |
| 資本剰余金期末残高 | 404 | 3,925 |
| 利益剰余金の部 | | |
| 利益剰余金期首残高 | 696 | 889 |
| 連結剰余金期首残高 | 696 | 889 |
| 利益剰余金増加高 | 193 | 217 |
| 当期純利益 | 193 | 217 |
| 利益剰余金減少高 | — | 151 |
| 配当金 | — | 56 |
| 役員賞与 | — | 5 |
| 持分法適用会社の減少による利益剰余金減少高 | — | 89 |
| 利益剰余金期末残高 | 889 | 955 |

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円、単位未満は切り捨て)

| 科目 | 前期(第18期) 平成15年1月1日 ~平成15年12月31日 | 当期(第19期) 平成16年1月1日 ~平成16年12月31日 |
|-------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 36 | 295 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 784 | △7,995 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △1,289 | 11,598 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 0 | 0 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △468 | 3,898 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,955 | 1,487 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,487 | 5,385 |

株式情報 (平成16年12月31日現在)

発行する株式の総数 379,440株
発行済み株式総数 127,032株
1単元の株式数 1株
株主数 7,868名

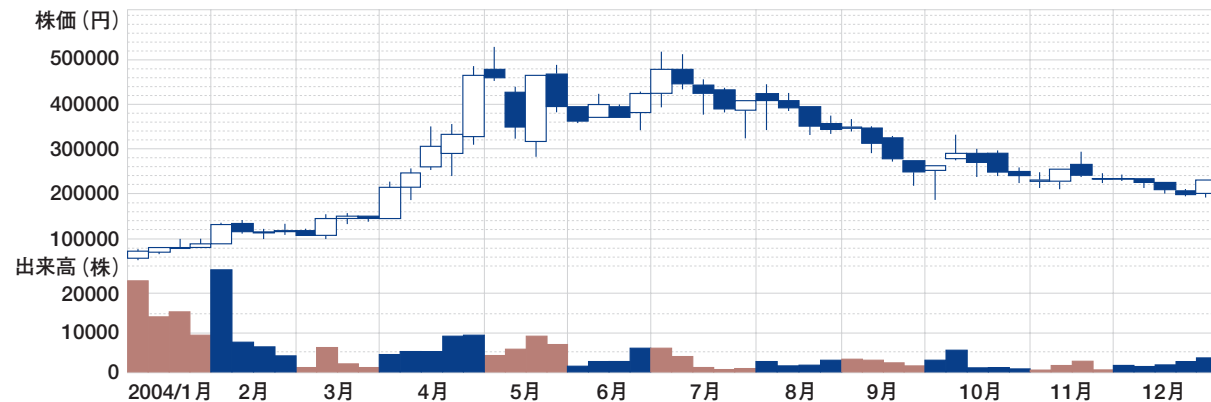
主要株主 (平成16年12月31日現在)

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|-------------------|--------|---------|
| 鎌田 正彦 | 64,128 | 50.48 |
| 大内 純一 | 4,594 | 3.62 |
| エスピーエス従業員持株会 | 3,653 | 2.88 |
| 株式会社スリーイーコーポレーション | 1,560 | 1.23 |
| 松井証券株式会社 | 1,114 | 0.88 |
| 伊藤 和夫 | 1,012 | 0.80 |
| 川本 昌寛 | 756 | 0.60 |
| 東 善彦 | 750 | 0.59 |
| 石川 正志 | 681 | 0.54 |

株主メモ (平成16年12月31日現在)

決算期 12月31日
定時株主総会 毎年3月開催
基準日 利益配当金 12月31日
中間配当金 6月30日
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所 〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号
UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先 ☎0120-111-698 (オペレーター対応)
☎0120-244-479 (音声自動応答・用紙ご請求専用)
同取次所 UFJ信託銀行株式会社 本店および各支店
公告掲載新聞 日本経済新聞
会計監査人 中央青山監査法人
決算公告掲載アドレス <http://www.sbs-group.co.jp/ir/financiadata/index.html>

株価チャート (平成16年1月1日～12月31日)



※平成16年4月20日付で普通株式1株につき2株の分割を行っております。平成16年8月20日付で普通株式1株につき3株の分割を行っております。
※上記の株価・出来高は調整後の数値を記載しております。

会社概要 (平成17年2月28日現在)

社名 株式会社エスピーエス
代表取締役 鎌田 正彦
創立 昭和62年12月16日
資本金 38億3,393万円
売上高 451億円(平成16年12月期連結決算実績)
所在地 〒131-0034
東京都墨田区堤通1-19-9
TEL:03-5655-6110 (代表)
FAX:03-5655-6180
業務内容 物流事業
人材事業
マーケティング事業
金融事業
情報サービス事業
リサイクル事業
連結子会社 SBSポストウェイ株式会社
SBSロジテム株式会社
SBSスタッフ株式会社
株式会社総合物流システム
株式会社富士総合物流研究所
マーケティングパートナー株式会社
株式会社トランスワールド
有限会社フォワード
フーズレック株式会社
株式会社エーマックス
株式会社ビッグバン
株式会社AT&C
株式会社ダック(平成17年1月5日付にて連結子会社化)
さくら運輸株式会社(平成17年3月1日付にて連結子会社化)
他8社
持分法適用
関連会社 株式会社シーエスネット

役員状況 (平成16年12月31日現在)

代表取締役社長 代表執行役員 鎌田 正彦
取締役 常務執行役員 大内 純一
取締役 常務執行役員 入山 賢一
監査役 米田 樹一
監査役 水谷 宣一
監査役 正松本 重孝

監査役のうち、水谷宣一、正松本重孝は「株式会社
の監査等に関する商法の特例に関する法律」
第18条第1項に定める社外監査役です。

SBSグループの新体制

